

話し合いや協働活動を通して、 自分たちで考え判断する力の育成を目指す取組

【学校名：千葉県立千葉特別支援学校】

～取り組みのポイント～

千葉県清掃検定マニュアルに沿って、基本的な清掃技能を身につけ、習得したスキルを使って、職員から依頼された場所の清掃を行った。清掃の役割分担やいつまでに終わらせるかなど、活動計画を自分たちで話し合って決めることで、任された仕事に責任をもって取り組む姿が見られた。また、清掃終了後、責任者が依頼者に報告に行き、感想や評価を直接受けることで達成感や働く喜びを感じ、勤労意欲や自己肯定感の向上につながった。

1. 実践の概要

(1) 対象生徒

千葉特別支援学校高等部3年生の企業就労を希望する生徒

本校は知的障害のある児童生徒が通う特別支援学校である。高等部は、半数以上が中学校から入学しており、生徒の実態は幅広い。知的障害の程度が軽度の生徒にとっての学習活動の充実を目指し、企業就労を希望する3年生に特化した作業班を編制することにした。近年、企業就労者の就労先は、サービス業が中心となっていることから、サービス業に取り組む作業班が必要だと考え、だれにとっても身近で生きていく上で欠かすことのできない「清掃」を学習活動の中心として取り上げることにした。

また、年間の取り組みの中では、自分の清掃スキルの習得状況を確認する機会として校内検定に取り組み、プレ清掃検定として、生徒同士で試技を見合い、互いに評価し合う機会も設けるようにした。令和元年度は4名の生徒が、千葉県特別支援学校清掃検定に出場した。

(2) 教科・領域

- ・各教科等を合わせた指導
作業学習（メンテナンス班）

(3) 目標

- ①身につけた清掃技能を生かし、依頼された場所の清掃に取り組むことができる。
- ②依頼者から指定された期限や留意点を意識して清掃に取り組むことができる。

(4) 学習計画 「依頼された場所の清掃に取り組もう」

月 日	曜 日	活 動 内 容
R 2 11/11	水	導入（目標決め、依頼書回収）
11/12	木	清掃場所、役割決め
11/13 ～ 19	金～木	依頼場所の清掃
11/20	金	グループの清掃状況確認、清掃場所、役割決め
11/24 ～ 26	火～木	依頼場所の清掃
11/27	金	グループの清掃状況確認、清掃場所、役割決め
12/ 1 ～ 3	火～木	依頼場所の清掃
12/ 4	金	グループの清掃状況確認、清掃場所、役割決め
12/ 8 ～ 10	火～木	依頼場所の清掃
12/11	金	グループの清掃状況確認、清掃場所、役割決め

12/15・16	火・水	依頼場所の清掃
12/17	木	依頼場所の清掃
12/18	金	振り返り、活動報告、お疲れ様会

2. 実践の内容及び工夫

(1) 話し合い活動…依頼書をもとに清掃場所の役割分担を決め、期限や留意点を確認する。

- 〔工夫点〕
- ・リーダーを決め、リーダーを中心に話し合いを進めるようにした。
 - ・なかなか発言できない生徒には、教員がそばでアドバイスしたり、一緒に考えをまとめたりして、発言を促すようにした。

(2) 清掃活動…担当場所の清掃に取り組む。

- 〔工夫点〕
- ・個々の得意なことを生かした役割分担になるよう配慮することで、全員が自己有用感ややり甲斐を感じながら仕事に取り組めるようにした。
 - ・ペアやチームを組んで取り組むことで、互いに進捗状況を確認したり、仕上がりを点検し合ったりするようにし、教員も共に働きながら、声のかけ方や報告の仕方などの手本を示すようにした。
 - ・うまくいかないことも大切な学びの機会ととらえ、生徒が考え、判断する姿勢を尊重するようにした。

(3) 報告…清掃が終わったことを依頼者に報告する。

- 〔工夫点〕
- ・達成感や働くことの厳しさを感じることができるよう、依頼者に、率直な感想を伝えてもらうことを事前に伝えた。
 - ・清掃前と清掃後の写真や依頼者からの評価表を、多くの人の目に触れる場所に掲示することで、意欲や達成感を得られるようにした。

3. 実践の評価

(1) 成果

同じ企業就労という目標をもった同質集団でグルーピングしたことで、互いに刺激を受け合い、高め合う姿が見られた。また、必要なことを互いに伝え合う際、どのように話したらよいか、相手がどう思うかを考えて話をしようとする姿勢が育ってきた。さらに、自分たちの仕事に対する率直な評価や感謝の言葉を直接受ける場面があることで、働くことの厳しさや喜び、達成感など、体験を通して学ぶことができた。自分の行った清掃活動を依頼者に喜んでもらえることは、「清掃が得意」という自信につながり、自己肯定感の向上にもつながった。

また、期限内に終わらせることができなかつたり、きれいに仕上げることができなかつたりしたときに、原因は何かを自分たちで考え、次はどうしたらよいか話し合い、次に生かそうとする姿勢も身に付いてきている。

(2) 課題・展望

感染症対策が必要な状況の中で、学習活動が校内で完結してしまっている。今後、地域へ活動の場を広げ、自分たちの仕事報酬を得るサービスとしての質を保証できているかを自分たちで確認できるような機会を設けていくことで、より働く姿勢の育成につなげていきたい。

また、毎日の100分間という授業時間の中で、とことん働き、じっくり振り返るという時間をどう確保するかが大きな課題と感じている。週に1回、作業学習に終日取り組む日を設けたり、現場実習期間中の長時間作業期間に地域での活動を取り入れたりするなど、教育課程の変更や年間計画の見直しを進めたい。